

# 港湾空港

## 阪神港スーパー中枢港湾プロジェクトの推進

国際競争力の回復に向けて、アジア主要港湾をしのぐコスト・スピード・サービス水準を実現するため、平成16年7月、大阪港と神戸港が一体となった「阪神港」としてスーパー中枢港湾に指定され、大水深岸壁（-16m）を備えた高規格コンテナターミナルの整備の推進や、24時間フルオープン化に向けた支援などに取り組んでいます。

また、平成19年12月には関係法令が改正され、大阪湾諸港（大阪港、神戸港、尼崎西宮芦屋港）が一開港化し「阪神港」となり、とん税及び特別とん税が軽減されるとともに、入港料低減のインセンティブ制度とあわせて、船舶コスト低減や環境負荷の軽減に寄与しました。

今後も広域連携強化への支援、24時間フルオープン化への支援などソフト面、ハード面から先導的な施策を展開し、総合的にスーパー中枢港湾プロジェクトの充実深化を図っていきます。

さらに、国際コンテナ戦略港湾の指定に向けて検討を進めています。

### 船舶の大型化への対応

◇ポートアイランド2期PC18(-16m) (耐震)  
(平成22年4月供用)



### 船舶の大型化への対応

◇北港南(夢洲)C12(-16m) (耐震)  
(平成21年10月供用)



神戸港 ← 阪神港の連携強化! → 大阪港

### スーパー中枢港湾プロジェクトの事業効果

目標：世界トップクラスのコスト・スピード・サービスの実現  
港湾コスト：現状より約3割低減を目指します  
リードタイム：現状2日を1日程度まで短縮(シンガポール港と同レベル)

### 国際物流戦略チームの取り組み

スーパー中枢港湾「阪神港」、関西国際空港、広域幹線道路等の物流体系の広域的な連携の強化を図り、より一層の国際物流の効率化を実現することにより、関西経済の活性化をめざしています。そのため、産学官が一体となって各種方策に取り組んでいます。船舶コスト低減につながる大阪湾諸港の一開港化の実現にあたり、中心的役割を果たしました。

## 堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点整備事業の推進

東南海・南海地震や内陸直下型地震等の大規模災害に対応するため、堺泉北港堺2区において、平成23年度の供用を目標に、基幹的広域防災拠点の整備を進めています。

京阪神都市圏の臨海部にオープンスペース等を確保することにより、緊急物資輸送の支援や応急復旧活動等の円滑化が図られるとともに、平常時は住民が憩える親水性を備えた緑地として利用されます。

なお、堺泉北港堺2区における基幹的広域防災拠点では、緑地、臨港道路及び近接する耐震強化岸壁等の整備を行い、①救援物資の中継・分配機能、②広域支援部隊の集結地・ベースキャンプ機能、③応急復旧用資材等の備蓄機能等の高次支援機能を担います。



# 公園

## 国営飛鳥・平城宮跡歴史公園(飛鳥区域)の整備

近畿地方には数多くの重要な歴史的、文化的資産が存在し、これらが周囲の自然的・人文的環境と一体となり貴重な歴史的風土を形成しています。我が国古代の政治と文化の中心として栄えた飛鳥地方では、その豊かな自然と文化的遺産の保存・活用を図る施策の一環として、祝戸、石舞台、甘檜丘、高松塚周辺、キトラ古墳周辺地区の5地区で国営公園の整備を行っています。

キトラ古墳周辺地区については、特別史跡キトラ古墳や史跡檜隈寺跡の周辺環境の保全や体験学習の場としていくため、平成28年度の開園を目指し、平成21年度より基盤整備を行っており、引き続き事業の推進を図っていきます。



# 営繕

## 既存官庁施設の有効活用を図るリノベーション事業の推進

建替え需要が増大する中、既存官庁施設の有効活用を推進するため、施設の長寿命化を図る必要があります。

このため、既存建築物の構造躯体の健全化、利用実態の変化に対応した模様替え及び狭隘解消のための増築、環境負荷低減技術の活用等により、新築と同等の機能を確保するリノベーション事業を積極的に推進しています。



彦根地方気象台(現況)



彦根地方気象台(完成予想図)